

するものである。

日本気象学会藤原賞受賞者：住 明正（東京大学・気候システム研究センター）

業績：TOGA を中心とする熱帯海洋大気結合システム研究の推進

選定理由：エルニーニョ・南方振動（ENSO）現象は、全地球の気象の年々変動の原因として、近年世界中で精力的に研究が進められ、多くの新しい知見が得られつつある研究分野である。このような研究の展開には、WCRP のサブプログラムとして1985年から94年にかけて実施されている TOGA (Tropical Ocean-Global Atmosphere) 計画が中心的役割を果たし、その目標である ENSO 現象の予測の基礎を築き成功裡に終了を迎えつつある。

TOGA 計画の成功、そして ENSO 研究の発展には、1992年11月～93年2月に行われた TOGA-COARE (Coupled Ocean-Atmosphere Response Experiment) の集中観測への参加をはじめ、日本研究陣の活動が大きな役割を果たして来たが、それは、住会員の的確な問題把握にもとづく企画とすぐれたリーダーシップによってはじめて可能となったものと言える。

すなわち、住会員は1987年頃、それまで充分注意を払われていなかった赤道西太平洋域の暖水プールとその上の大気対流活動中心の相互作用による変動こそ ENSO 現象にとって本質的なものである、との考えに

立ち、この領域の観測プロジェクトを独自に提唱した。同時期始められた TOGA-COARE 計画に合流し、国際的 TOGA-COARE の立案に携わりながら、日本の研究陣の参加を J-COARE として組織した。その結果、COARE の集中観測には日本から4隻の観測船と50名を越える研究者が参加し、成功裡に観測が終了し、貴重なデータが得られている。他方、住会員は、科学技術庁のプロジェクト「太平洋における大気・海洋変動と気候変動に関する国際協同研究 (JAPACS)」の熱帯海洋部会主査としてプロジェクトを的確にリードし、国立研究機関での研究推進に貢献し、その TOGA プロジェクトへの適切、有効な参画を実現した。さらに、80年代後半アメリカ NOAA の太平洋海洋環境研究所 (PMEL) で開発された ATLAS プイの有効性を見抜いて、計画に協力し、JAPACS、J-COARE 両プロジェクトを通じて、海洋観測史上初めての準定常観測網である熱帯大気海洋観測網 (Tropical Atmosphere Ocean Array) の実現の一翼を担い、さらにその発展を図る活動をつづけている。

以上のように、住会員は、優れた洞察とアイデアに裏づけられたリーダーシップにより、日本の気象界として国際舞台での初めての本格的観測プロジェクトを実現に導いたのをはじめ、その業績には極めて大きなものがある。

よって日本気象学会は、住明正会員に藤原賞を贈呈するものである。

月例会「第38回山の気象シンポジウム」のお知らせ

日時：1994年6月18日（土）予定13時から

場所：専修大学付属高校梅田記念館

（東京都杉並区和泉4-4-1）

京王線代田橋駅下車北へ約1km

講演希望の方は演題に200字以内のアプリストラクト

をつけ下記に5月15日までに郵送して下さい。

記

〒102 東京都千代田区麹町4-5

海事センタービル内

日本気象協会 中村 繁